稗搗の郷

細田琥星

今様

都はなれし平家人の瀬戸の海に沈みしも
山脈深くひそやかに伝えし雅のはかなさや

稗搗の歌

松口月城

屋島の浜　壇の浦の辺
平家の末路　亦憐れむに堪えたり
残党隠遁す　上椎葉
山岳深き処　炊煙を見る
哀話綿々　栄華の夢
稗搗の俚謡　今に至るまで伝う

短歌

細田琥星

山脈の霞みの奥にひそやかな
心たくせし姫の鈴の音

詩

青葉の笛

松口月城

一の谷の軍営　遂に支えず
平家の末路　人をして悲しましむ
戰雲収まる処　残月あり
塞上　笛は哀し　吹きしものは誰ぞ

民謡

ひえつき節

一　庭の山椒の木　鳴る鈴かけてヨーホイ
　鈴の鳴るしきゃ　出ておじゃれヨー
二　鈴の鳴るときゃ　何と言って出ましょヨーホイ
　駒に水くりょと　言うて出ましょヨー
三　那須の大八　鶴富おいてヨーホイ
　椎葉たつときゃ　目に涙ヨー